

2021 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 11月 17日
- 事業名 : 食と職をつなぐ高校生起業塾
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人北海道 NPO ファンド
- 実行団体 : 特定非営利活動法人のこたべ

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
No1「生産者の営み体験」: 地元の高校生が都市部の大学生とともに、地元の生産者のもとで一次産業を体験し、生産者の暮らしや営みを知り、これまで感じてこなかった刺激を受ける。	生産者の元へ訪れた高校生と大学生の数	2021 年度関わった高校生 20人 2022 年度関わった高校生 50人	2023 年 3月	関わった高校生 30 名	1
No2「地元商品開発・広報・販売」: 高校生自らが大学生などのメンターとともに考案したコンセプトをもとに、地元の食品などのリソースを使って商品開発を行い、メディアを使用した広報、地元商業施設での販	商品開発過程において関わった地元のステークホルダーの数	2021 年度ステークホルダー 15名 2022 年度ステークホルダー 20名	2023 年 3月	ステークホルダー数 20名弱	1

売を通して、～18歳（高校生）が地元にいるロールモデルとなる大人と協働する。 また、0から1を作り出す過程を通して、主体性を身につける					
No3「地域デザイン塾」：若者自らが開発した商品のプロモーション過程などにおいて必要な知識を、地元の様々な分野のプロフェッショナルから教わり、知見を広げ学校で学ぶ5教科に留まらないスキルを身につける。	講義を開催した地元のプロフェッショナルの人数 若者に向けて開催した講義数 講義の参加者の数（高校生に限らない）	2021年度プロフェッショナル5名 講義数5 参加者数25 2022年度プロフェッショナル10名 講義数10 参加者数40	2023年3月	講義数1 参加者数10 （2021年度を含まない、2022年度のみ）	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
事業を通して対面での接触をなるべく避けるため、対面で行う必要性のある場面以外では、テクノロジーを駆使しオンラインでの活動を織り交ぜて事業を行なった点。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

別紙

2.広報制作物等

別紙

3.報告書等

別紙

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事業内容	平島竹琉	NPO 法人のこたべ 会員
外部	事業内容・組織体制	久保匠	NPO 法人北海道 NPO ファンド
外部	組織体制	遠藤千尋	NPO 法人北海道 NPO ファンド

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
対象事業に参加した高校生	参加高校生へのアンケート	92%	2023 年 3 月	本事業に参加した高校生に実施したアンケートで、「地元には何もないと思っていたが様々な活動を通して、地元には自分の知らない魅力がたくさんあることを知った」と言った類の声が全体数の半数以上見受けられた。
対象事業に参加した高校生	参加高校生へのアンケート	80%	2023 年 3 月	本事業に参加した高校生に実施したアンケートで、「このプログラムで動画の編集などを学んだので、次は地元の良さを伝えることのできるような動画を作りたい」という声が挙がっており、本事業が高校生に地元に貢献したいという思いを持ってもらうことに関して効果的なものであると言える。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>全ての短期アウトカムにおいて、その達成のために最も効果的な事業内容を策定し計画を作成することに注力し、さらにその計画を地域の資源を有効活用して実行していることにより、目標値の達成の見込みがあると判断できる。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	アウトプットの目標値は妥当か	妥当である	初年度の事業終了後に、内部と外部を交えた面談を多岐に渡り行い、事業計画のアウトプット見直しを行ってきた経緯がある。その際には初年度の活動を通じた知見をもとにアウトプット目標値の見直しが行われたため、妥当であると判断される。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・短期アウトカムの発現に向けて、他の方向性に振れずに最も効果的な活動ができてきているか ・当初想定された受益者に対して、事業を提供できているか 	<ul style="list-style-type: none"> 出来ている 出来ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業中のイベント等で都度行われるアンケート調査などでは、受益者が短期アウトカムの発現に向けて効果的と捉えられる意見や感想が占めていたため、出来ていると判断される。 ・事業への参加者の人数、属性ともに当初想定されていたものと相違がないと言える。
組織基盤強化・環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の人事や行政担当地域における特定非営利法人としての義務を果たしているか ・活動を継続する上での組織、事業、財源基盤が整っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・努力が必要とされた部分が明確にされ、現在は改善されている。 ・努力が必要とされた部分が明確にされ、現在は改善されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間評価により地域住民への情報開示等不十分とされているところが明確となり、早急に改善のための措置を行ったため、現在は義務を果たしていると言える。 ・事業、財源に関しては中間評価以前から定期的な打ち合わせ等で話し合われてきていたため基盤は整っているが、組織に関しては中間評価で整っていない部分が指摘され、現在は理事を中心とした定期的な組織打ち合わせを設定することで効果的な整備の措置を行い続けていることから、改善されていると言える。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

昨年度の活動から、成果として活かすことのできる点と反省点の分析を細かく行なったことにより、今年度以降の活動では短期アウトカムの状態の変化・改善に際してどのような活動が最も効果的となり得るのかを判断し、事業計画の見直しを行うことが出来た点。

具体的な事例としては、本事業が助成金を活用し地域の様々なステークホルダーを巻き込みながら行われているため、受益者である地域の若者が普段は接点のない地域のステークホルダーと直接関わる事が可能となり、受益者が様々な視点から各々独自の知見を持つことができていたことが挙げられる。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

事前評価時には事業の受益者に関して18歳以下と定義していたが、事業を行う際にメンターとして関わっている地域の大学生も、事業をともにこなっていく中で地域団体とのつながりや主体性を身につけ、18歳以下のみならず地域の若者が全体として受益者として定義することが出来るようになってきていること。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>食と職をつなぐ高校生起業塾の中で、昨年度は「主体性」と「地域への愛着」の両方を育む事業を行うことができたと言えるが、短期アウトカム達成のために「地域の食」という観点を入れることが出来なかったという反省点も残ったため、今年度はそのような視点を織り交ぜながら、昨年度成果を出すことの出来た部分もさらにブラッシュアップを行った。また、中長期アウトカムの見直しに関して多大な時間を費やしたことにより、中長期アウトカムの達成のための短期アウトカム、短期アウトカム達成のための事業内容という流れで適切に見直しを行うことが出来たと言える。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

中間評価に関しては適切に行うことが出来たと評価されるので、残りの事業期間は中間評価で明確になった事業に関して注力していきたい。具体的には、アウトプット No1 と No2 に関しては既に概ね達成されているが、No3 の地域デザイン塾に関しては年度の後半に行う予定だったこともありまだ指標の達成に努力が必要な部分もあるため、その点に関しては早急に取り組んでいきたい。また、次年度の活動に向けた組織基盤の強化に関しても、並行して今後注力していきたいと考える。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

次ページ



自己紹介

國分 晋吾 Shingo Kokubun

◎これまでのお仕事

RECRUIT → 夢八 → 南館 鳥居書店 → 日本財団 海と日本プロジェクト 海のごちそうPROJECT プロデューサー

◎現在のお仕事

株式会社Mirai Comeon 代表取締役社長

株式会社Minato Works 代表取締役社長

株式会社五島軒 社外取締役

株式会社シンプルウェイ 取締役副社長

株式会社Hakodate Mirai Comeon 七まちづくり・事業企画 取締役CHO

2

埼玉県から移住して13年目！
 たくさんの可能性を開いて「未来は明るい！」と思える地域をみんなで。